

熊本県障がい者オセロ大会記念誌

あゆみ



熊本県障害者スポーツ・文化協会



ごあいさつ

熊本県障害者スポーツ・文化協会

会長 川村 隼秋

私ども熊本県障害者スポーツ・文化協会は、熊本県内に在住する障がい者のスポーツ及び文化の振興を図り、障がい者の心身の健全な発達に寄与し、積極的な社会参加を促進することを目的に平成8年に設立され、障がい者のスポーツと文化活動を支援して参りました。「くまもと車いすふれあいジョギング大会」や「火の国杯争奪各種障がい者スポーツ大会」等を主催し、障がい者のスポーツ振興を図って参りましたが、当協会の名称が「スポーツ・文化」としてあるように、障がい者のスポーツだけでなく障がい者の文化についても力を入れていこうと、平成18年度から「熊本県障がい者オセロ大会」を開催してきたところであります。

支援してきた各種スポーツ大会には40年を超える大会もある中で、「熊本県障がい者オセロ大会」を15年間続けられたことは、一重に大会を支えていただいた選手の皆様・介助をしてくださる皆様・ボランティアの皆様・競技役員の皆様のご協力の賜と厚く御礼申し上げます。

この15年間は決して長くない期間ですが、それでも世の中は「平成」から「令和」へと移り、内閣は6回替わり、7名の日本人飛行士が宇宙へ飛び出しました。パラリンピックは3回、冬季パラリンピックは4回開催され、自然災害においては未だ生々しい記憶の熊本地震、令和2年7月豪雨災害がありました。そして、今、人々は全世界に蔓延している新型コロナウイルス感染症と戦っています。残念ながらこの新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、最終回となる「第15回熊本県障がい者オセロ大会」は中止せざるを得ませんでした。楽しみにされていた参加者の皆様には残念なことであったかと思ひ、新型コロナウイルス感染症の早期収束を祈るばかりでございます。

こうしてみると、15回も大会を積み重ねている中に、様々な出来事があったと大変感慨深いものがございます。第1回大会から第14回大会まで選手・大会関係者合わせ延べ1,132人の参加があり、多くの方々に関わっていただけたことは当協会の目指すべきところに沿うものであったと思っております。また、多くの学生の皆様にボランティアをしていただきましたが、障がい者の方と関わることで、オセロ競技だけでなく、コミュニケーションの取り方や接し方を学ぶ場を提供出来たのではないかと思います。この大会を通して、未来を担う若者たちが「こころのバリアフリー」・「多様性を認め合う」・「共生社会の実現」という我々の思いを感じ取ってもらえたらとうと信じています。

ここで「熊本県障がい者オセロ大会」は幕を閉じることになります。

年に一度、熊本県身体障がい者福祉センターに集い、オセロの腕を競い合ったことを思うと寂しくもありますが、その思い出を「15年のあゆみ」として残せることは、大変意義の有ることであり、このうえない喜びでございます。

今後とも、当協会の更なる発展のために引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

歴代実行委員長お二人の対談



さかもと やすひろ
坂本 康博さん

第4回大会～第8回大会 実行委員長



みやべ のぼる
宮辺 登さん

第9回大会～第14回大会 実行委員長



－障がい者オセロ大会が始まったときのことを教えてください。－

坂：障がい者オセロ大会の始まりは「施設対抗オセロ大会」でした。この大会は今も毎年開催されているのですが、「せっかくだからうち（スポーツ・文化協会）でもやってみようか？」と、職員Uさんが発起人となって始まったんです。

宮：そうそう。

坂：で、対局時計やオセロ盤を買いそろえて、本格的な対戦が出来るようになりましたね。これは「施設対抗オセロ大会」では無かったことでした。

－実行委員として関わるきっかけは？－

坂：私と宮辺君は2連覇の経験があって.....（笑）。

宮：うっふふふ（笑）

－強すぎるからってことで実行委員長ですか？－

坂：いやいや、そういう訳では無いけれど（笑）

宮：あのねえ、「障がい者の大会だから、障がい者が主体にならないと。」って言うことだったんです。

坂：それで、私がオセロ大会に詳しいからと頼まれたんですね。初回からお手伝いをして、実行委員長は第4回大会から第8回大会まで努めました。その後は宮辺君にやってもらったね。

宮：（うなずきながら）第9回から第14回までやりました。15回は中止だったからね。

－今と昔では参加者を取り巻く事情はどうですか？－

宮：前は施設の人（職員）が障がい者を何人でも連れて来てくれた（対応が出来た）。今は支援の制度が変わってしまって、そう簡単にはいかないです。

坂：（施設にいる）障がい者は楽しみにしてるんだけどねえ....

けれど、まだ「施設対抗オセロ大会」があるからね。この大会は施設で持ち回りの大会だから付添も付きやすいと思う。一時期は福祉センターが一番場所が近いということで、ここに集まって8施設でオセロ大会をしていたこともあったんですよ。

－選手（参加者）についてはどうですか？－

坂：私は、この大会のおかげで、視覚障がい者の競技の様子を初めて見ました。施設対抗では視覚障がい者はいないからね。

宮：いないねえ。

－大会の内容については？－

宮：参加費を500円もらっていたけれど、盾（トロフィー）や賞品、参加賞を用意できていたから良かったと思います。

坂：いまは会場として会議室を使っているけど、最初の頃は会場が広いということで体育館を使っていました。だけど空調が無かったから暑かったりして大変でしたね。ねえ体育館にはクーラー付けないの？

－坂本さん寄付していただけますか？－

坂・宮：そりゃ出来ないよ。（一同笑）

－先ほど2連覇の経験があるとお聞きしましたが、オセロが強くなる秘訣は？－

坂：前からやっとなるけん。私はオセロ歴50年ですもん。

－坂本さん、オセロ歴50年ということは、小学校時代くらいから始められた？－

坂：はい。そのくらいからでしょうか？あの頃はオセロがはやり始めたときで、牛乳瓶のフタ（紙）を使ってコマを作り、フタの大きさに合わせてマス目を紙に書いて盤を作っていました。そうやってオセロをやりよったです。コツコツと続けることですかね。

－宮辺さんは？－

宮：う～ん。

－やっぱりココ（頭脳）ですか？－

宮：（笑） いやいや。

坂：宮辺君も私も、将棋とか囲碁とかするんですよ。だから、（オセロは）やりやすいんですよ。

宮：そう、将棋ね。オセロはゲーム（某ゲーム機）でもしてた。

—そのゲームは私も持っていました（一同笑）。
—ということは一人でも楽しみながら練習を続けたと
—いうことでしょうか？—

宮：そういうことです。

坂：オセロは簡単にできて、勝負がはっきりつくのが
魅力です。

宮：誰にでも（障がい者、健常者関係なく）出来る！

—お二人の間にライバル意識とかありますか？—

坂・宮：無いです。（笑）

—対戦はされたことは？—

宮：あははは。あったよ！

坂：勝負は勝ったり負けたりだったかな？（笑）

宮：勝負は関係ないもん。ふふふ。けど、こっち（坂
本さん）が強い。（笑）

坂：勝負はわからん。途中でひっくり返ることもある
から。

—他施設や2人の周りの障がい者のオセロ事情として
はどうですか？—

坂：だいぶんオセロをやる人も少なくなってきたと思
います。年齢層も高くなってきたし。

宮：そうだね。私の周りでもあまりいないですね。某
施設では（福祉関係の）実習生が来た時とかに、
時間があると「オセロでもやろうか。」という感
じでやっているようすが。

坂：やっぱり（肢体不自由者は）自分でコマを返せな
いから、実習生に手伝ってもらってというところ
ですよ。

昔と違って、今はもっと（手軽な）楽しいゲー
ムがあるからですね。だからだんだんオセロをす
る人も少なくなったかな。特に最近はコロナで外
に出かけませんので私も去年から何もしてないで
す。

宮：俺たちは（手伝いがいないと）何もできんもんね。

—大会の時、ボランティアとの関わりとかどうでした
か？—

坂：技術的なところで、補助員・競技役員としての役
割をしっかりと解ってもらおうということが少し足り
なかったようだと思います。ぎこちなかったよ
うに思いました。

宮：コミュニケーションはね時間がたつにつれてうま
く取れるようになったと思います。印象に残った
ボランティアさんといえば、2～3年前だったと
思いますが、この大会のボランティアがきっかけ
で、某施設の職員さんになった方がいました。（笑）

当時、あの方は大学生だったと思いますね。良
い繋がりが取れたと思います。

—この大会が一役買ったわけですね。—

宮：そうかな。ふふふふ。

—実行委員をやっていて思ったことは何ですか？—

坂：業務の説明ですね。いかに進行をスムーズに進め
るかということです。

宮：コミュニケーションでしょうか。選手とボラン
ティアはもちろんですが、大会全部をひっくるめ
ての交流というのが薄かったと思います。難し
かったです。

—最後に、障がい者の文化活動にどのような内容が
あると良いと思われますか？—

坂：私はやっぱり障がい者オセロ大会を続けて欲しい
ですね。他県ではこういった大会を聞いたことが
ないのでね。個人参加が出来るのは良かったと思
います。

宮：今はパソコンやスマホがありますね。だからイン
ターネットの使い方を教えてもらいたいです。横
の繋がりが無いから。いずれ、オセロ大会もオン
ラインでやれると良いですね、家で出来るから。
あと、（障がい者の活動には）ボランティアさん
は必要なので探す（育成する）ことも大切だと思
います。

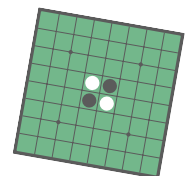
あ と が き

今回は大会に長年携わってこられたお二人に、貴重
なお話をたくさん伺うことができ感謝いたします。実
行委員長のお思い出をお二人で笑いながらお話しになる
様子は、まだまだ、青春真最中といったようで良い雰
囲気でした。

障がい者の方々の生活も、昔と今では大きな変化が
みられ、大会を存続するにも障がい者主体では出来な
くなりつつある現状を、お二人とも憂いておられるよ
うでもありました。

コロナ禍の中で、不要不急の外出の自粛やソーシャ
ルディスタンスを心がけなければならないご時世です
が、「いつかまたやろう」という大会への思いをお二
人から感じる対談でした。

坂本さん、宮辺さん長きにわたりありがとうございました。





「熊本県障がい者オセロ大会」の歴史

※第1回、第3回大会の記録写真については、記録媒体の都合により掲載することが出来ませんでした。

第2回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回





第11回



第12回



第13回



第14回



Special Thanks

第1回～14回大会ボランティア団体

(順不同)

熊本保健科学大学

熊本学園大学あすなろう

熊本中央高等学校

熊本駅前看護リハビリテーション学院

熊本総合医療リハビリテーション学院

九州中央リハビリテーション学院

熊本市立西原中学校男子バスケットボール部

熊本市立西原中学校女子バスケットボール部

熊本障がい者スポーツ指導者協議会

熊本県点字図書館

熊本県視覚障がい者福祉協会・団体

熊本県ろう者福祉協会

熊本県精神障害者福祉会連合会

第14回大会一般ボランティア

熊本社会福祉専門学校 (H31.3.31閉校)